

将来にわたって旅行者を惹きつける地域・日本のレガシー形成

事業概要

- 持続的な観光地経営の実現を図るためには、将来にわたって国内外から旅行者を惹きつけ、継続的な来訪や消費額向上につながるよう、地域・日本のレガシーとなる観光資源を形成することが重要。
- こうした地域のレガシー形成には中長期的な事業実施が必要であるため、地域と連携しつつ、レガシー形成に関する実現可能性調査やプラン作成を行う。

事業内容

・取組内容：

地域におけるレガシー形成を促進するための以下の取組

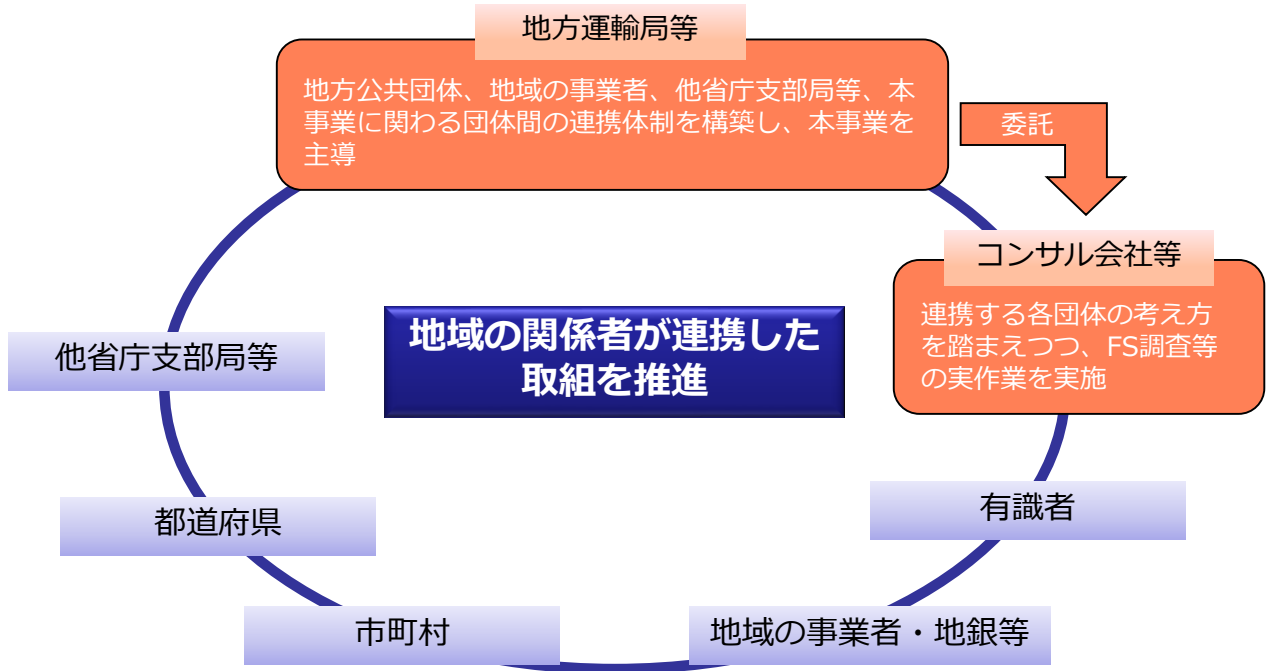
- ・ 実現可能性調査（FS調査）
- ・ 調査結果を踏まえたプラン作成

・実施主体：

地方運輸局等
(地方公共団体等と連携)



実施体制（イメージ）



地域の関係者が連携した
取組を推進

レガシー形成に向けた取組の具体事例

レガシー形成を行った事例

直島におけるアートへの聖地化に向けた取組（香川県直島町）

- 昭和60年に福武書店（現・ベネッセ）社長と直島町長との間で「直島文化村構想」を策定。
- 構想に基づき、ベネッセ主導の下、街並みを活かした民家のアート展示空間への改修。
- 直島ならではの風景に受け込むアート作品の展示や他にはない特徴的な構造の美術館の建設等を通じて、直島を現代アートの聖地とするプロジェクトを地域住民を巻き込みながら推進。
- 平成22年からは3年おきに国際的な現代アートの祭典となる「瀬戸内国際芸術祭」を開催。



レガシー形成に向けた既存の取組事例

名古屋城天守閣木造復元に向けた調査（名古屋市）

- 現在の名古屋城（鉄筋コンクリート造）は再建から60年以上経過し、老朽化等の対策が必要に。
- これを機に、残されている詳細な実測図等の史料を用いて、江戸時代当時の木造による復元を計画。
- 木造復元した場合の入場者数、収支、経済波及効果等を推計するフィージビリティ・スタディ調査を実施。
- 調査結果をもとに、市民向け説明会を行うなど、計画の実施に向けた取組を新たに実施。



富士山登山鉄道構想（富士山登山鉄道構想検討会）

- 訪日外国人旅行者の増加や富士山の世界遺産登録により、富士山への観光客・登山客は近年、増加傾向。
- 一方、渋滞や混雑等の問題が顕在化。富士山の価値を守り、高めていくための一手段として、山梨県などが富士山登山鉄道構想を提案。
- 構想に沿って、導入ルート、整備方式、事業性、運営体系、技術的な問題点等について検証。

